

第 560 回 放送番組審議会

1. 日 時 2020 年 2 月 18 日(火) 午後 1 時 30 分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6 階 大会議室

3. 委員総数 8 名

出席委員 8 名

委員長	大橋 綾子
副委員長	佐藤 健志
委員	加藤 千晶
委員	高橋 司
委員	渡辺 理雄
委員	前田 千香子
委員	石田 亨
委員	柿木 康孝

欠席委員 0 名

社側出席者	榎野 信治 (代表取締役社長)
	青山 尚之 (専務取締役事業局長)
	柴柳 二郎 (報道制作局長)
	桑島 広実 (報道制作局次長 兼 制作部長)
	佐々木 隆士郎 (報道制作局制作部)

事務局	畑山 篤 (取締役編成局長 兼 放送番組審議会事務局長)
	小岩 祥子 (編成担当局長)

4. 議 題

1. 1/17(金)19:00～19:56 金曜MOVE

「文学の国いわて～文字がつむぐ青春～」

2.その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

・視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側意見

- 座談会方式で、文芸部を選んだ理由とかワークショップで学んだことなどを話してもらおうという構成は非常に良かった。ナレーションも高校生自らが行って自分の気持ちを表現する部分もあって、非常に高校生らしい、そして手作り感のある内容だった。
- 啄木や宮沢賢治を輩出したこの岩手盛岡の、地元のテレビ局らしい番組だと思った。こういう高校の文芸部にスポットを当てたということについても非常に感心したし、狙いが良かった。
- 男性作家が顔出しNGということで、帽子を目深に被られて映っていたが、あの帽子は印象が悪かった。顔が出せないのであれば番組の編集段階でもう少し別の言い方をしたほうが、男性作家のイメージがもうちょっと良くなるのではないかと気になった。
- 色々な方を取り上げていて、盛岡三高、四高、花北、それから通信制に通っている宮古の方、それぞれの取り組む様子を紹介していることが、広がりがあった良かったと思った。
- 少数者の方々のことを、今まで知られていない人たちを知ってもらうのは、テレビのすごく大きな、大事なことで、テレビ局にしかできないことに取り組まれていることが素晴らしい。これからもそういう番組を期待する。
- 生徒が非常に自然な感じで部活動をやっている。そこにカメラがあるのに、それを気にした様子がなくて自然にやっているというのは、取材している方が非常に上手にその場に馴染んだのだろうと思った。
- 運動部と違ってドラマティックなことがないので、地味で少し間延びするのではないかと思ったが、そこを要所所で引き締めたのがプロの方たちのコメントだったのではないかと。

局側意見

- 沢村先生を最初は顔も体も映さない状態という方法も考えたのだが、この人がこういうことを喋っているのだ、ということのを少しでもわかってもらうために、天秤にかけた結果、「帽子をかぶっていたらOK」ということだったので、放送に至った。
- 基本的には家で考えたり風呂で考えたりという、ほぼ動きがないところだったので、ありのままと言うか、もう少しやりようはあったのかもしれないが、そこは伝えられなかったという反省だと思っている。

- 8月3日の時点で、三高の3人が残り3回全部、3人とも出るということが分かった。番組で長い期間追うとなると、全部のワークショップに出してくれる子たちを撮影する必要があり、全4回出るとわかっているのがその3人しかいなかったのこの3人を取材した。なぜ三高なのかということをもうちよつと伝える必要があったと思っている。
- ナレーションは、番組を全体的に小説っぽくしたいとプロデューサーと話をして、実際に読んでもらうというのが気持ちもこもるし面白いのではないかと思った。実際の(読みの)練習は当日しかしていない。

7. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

公表の方法

- ①自社放送 2月25日(火)11:45-11:52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ②テレビ岩手本社での備え置き
- ③読売新聞への掲載(別添)
- ④自社HPでの掲載 <http://www.tvi.jp/banshin/index.html>